



オオバン号

内水面試験場とホトケドジョウ

水産技術センター内水面試験場 専門研究員・農学博士
ふるさと侍従川に親しむ会 顧問 勝呂尚之

皆さん、こんにちは～ 県の水産技術センター内水面試験場の勝呂（すぐろ）です。最近はおなかなか現場へ顔を出せませんが、会の皆さんとお付き合いは、侍従川のホトケドジョウを通して、かなり昔…たぶん20年くらい前?…から、仲良くさせていただいています。私の自己紹介を簡単にすると、神奈川県淡水魚の研究一筋、30年！主に絶滅危惧種の分布、生態、保全に取り組むお魚の研究者です。

皆さんは水産技術センターと言えば、たぶんイメージされるのは城ヶ島の本所の方ですよね？マダイやアワビ、ウニなど、美味しい海の幸の研究で有名です。しかし、私がいる内水面試験場は相模原市緑区の大島にあり、あまり知られていない地味な川魚の研究所です。業務を簡単に紹介すると、釣り人に人気のアユやヤマメなどの産業種の研究や、絶滅危惧種の保全・復元を含めた内水面生態系の研究などに取り組んでいます。



オオバン（大鵜）

学名： *Fulica atra*

見た目はカモの仲間のようなが、実際はクイナの仲間。ハトよりやや大きく全身黒色で、嘴と、額板と呼ばれる額の部位が白くとても目立つ。雌雄同色で足は特異な水掻きがあり、弁足と呼ばれる。本州では主に冬鳥として10月～3月頃まで滞在する。侍従川流域で最初に確認されたのは2010年頃で、それから徐々に数を増やし、近年では100羽程が見られるようになった。アナアオサやアマモを食べており、食性が被るヒドリガモと取り合う様子も頻りに観察される。

深沢大地

中でもホトケドジョウ（写真1）においては、関係者の間では全国的に知られた存在です。本種は都市開発や湧水の減少で生息地が縮小しているため、試験場では系統別に種苗生産を行って遺伝子を保存し、合わせて生息地の保全・復元のため県内各地を走りまわっています。



神奈川県の本種ホトケドジョウは、種としては1種類ですが、実は遺伝子を比較分析すると、4つの系統に分けられ、それぞれ、亜種レベルに分化しています（山梨大・宮崎研究室）。もともと源流域が主な生息地であるため、それぞれの地域に適応し、かつ、あまり移動しない魚なので、このような地域による遺伝的な多様性が生まれたのでしょうか。また、大きな地殻変動を繰り返したダイナミックな神奈川の地誌も、その原因の一つなのかも知れません。そのため、同じ神奈川県のホトケドジョウであっても一緒に混ぜて扱うのはNGで、それぞれの系統別にまじめに保全する必要があります。試験場にはホトケドジョウを飼育管理する水槽が50槽以上もあり、常時、10系統ものホトケドジョウを取り扱っているため、飼育管理がとてもたいへんです（写真2）。



皆さんの侍従川のホトケドジョウは、ビオトープでも保全されているので、現在は飼育していませんが、この度、京急マリパーク閉鎖に伴い同水族館が持っていた魚を引き取ることになりました。このところの地球温暖化による気候変動で大型台風やゲリラ豪雨も増えているので、侍従川のホトケドジョウの将来を考えると、やはり暫くは試験場で継代飼育していた方が安心だろうとの判断です。

ところで最近ではコロナの流行もあって、私の方は、なかなか侍従川方面へは足を運ばないでいますが、コロナが収束したら、ひさびさに侍従川に入り、生き物調査を皆さんと一緒にやりたいですね。都市河川としては、なかなか多様性も高く、汽水性の生き物も見られてとても楽しいフィールドですよ。

また、皆さんの方にも、内水面試験場に遊びに来ていただきたいと考えています。試験場ではホトケドジョウの他にも国指定の天然記念物のミヤコタナゴ（写真3）や県の自然水域からほぼ絶滅してしまったギバチ（写真4）、あるいはこども



たちに人気のミナミメダカ等の継代飼育を行っているので、その姿を水槽内でじっくり見ることができます。さらには、生息地の復元のため人工河川「生態試験池」では自然状態のミヤコタナゴやギバチが観察できる他、ホトケドジョウもビオトープ「谷戸池」（写真5）において、生態データを収集しているため、常時観察が可能です。また、目の前には県下最大の相模川が流れているので、侍従川とは少し違った川遊びができ、いつもは見かけない魚や昆虫に出会うことができるかも知れませんね。

こんなご時世ですが、やっとトンネルの出口が見えてきたようです。皆さんにお会いするのを楽しみにしています！



写真4



写真5

9月定例クリーンアップ

【活動報告1】

9月26日（日）10：00～11：45 曇り

飯村優介

実施内容：六浦2号橋～大道橋（土嚢袋4袋、傘）

参加者：飯岡学、寺尾勝廣、山田陽治、沖田正孝、沖田萌美、柴田繭子、柴田幸成(小5)、今井康祥、今井翔太(高1)、小池碧馬、河本充雄、深沢大地、貞廣宇保(中3)、五月女陽斗(中1)、臼井二葉(小6)、飯村優介(計16名)

気づいた点：大道橋下の自転車は、飯岡さんがガードレールまで上げてくださいました。後日、治水に連絡しました。



回収したゴミ



大道橋下の自転車

トピックス

10/21（木）六浦小学校5年生の侍従川体験…飯村が対応

10/28（木）六浦小学校5年生が侍従川の水草を校内ビオトープに移植…飯村が対応

11/7（日）観音崎自然博物館主催侍従川観察イベント開催

塩島実信さん（大道町内在住）が、侍従川沿いに侍従川定例クリーンアップの案内を掲示してくださいました。塩島さん、ありがとうございました。

ハゼ釣り大会

【活動報告2】

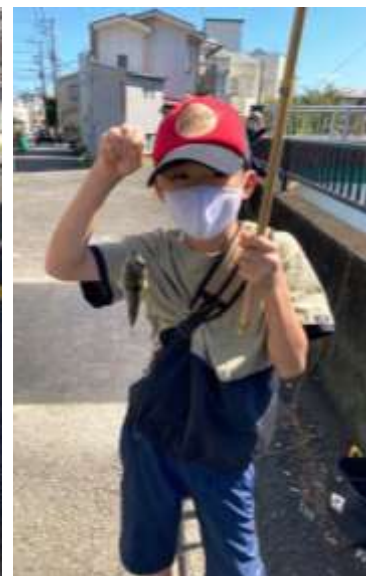
10月2日(土) 9:00~14:00

大塚倅之介(小3) 3回目の参加です。ハゼも前回より釣れたし、大きなフグも釣れて、とても楽しかったです。また次回のハゼ釣り大会も行きたいです！

山本悠晴(小3) ハゼが2匹釣れて嬉しかったです。前より釣りが好きになりました！

大塚こころ(小6) 前回よりもたくさんハゼが釣れて、天ぷらも美味しく食べられました。そして何より餌を自分でつけられるようになりました！

阿部百花 天気も良く楽しみながら釣りが出来たので、とても嬉しかったです！



10月定例クリーンアップ

【活動報告3】

10月24日(日) 10:00~11:20 晴れ

飯村優介

実施内容：六浦2号橋~大道橋(土嚢袋3袋、傘1本)

参加者：飯岡学、沖田正孝、沖田萌美、柏倉正和、
柏倉陽向(中3)、柏倉陽斗(小6)、貞廣宇保(中3)、
小池碧馬、小野田勇介、飯村優介(計10名)

気づいた点：朝は冷え込み、参加者は少なめでした。ゴミはやや多かった。目視でマルタウグイを確認した。終わりは清掃のみの方は11:20頃自由解散、生き物探しは11:50頃まで開放しました。



回収したゴミ

11月7日の「秋の恵みをいただこう」に参加しました。ちとせ園に集合してから、徒歩で鼻欠地藏横から朝比奈北市民の森に入りました。5歳児～小学生・大人まで全18名でしたが、みんな飯村さんについて山道を進んで行きました。時々道を外れ、いつしか森の奥へ…。手足を使って山の土手を這って歩いたり、斜面で倒木をくぐりながら進んだり。行った先には、倒木にキクラゲがびっしりとついていたり、ムラサキシメジやシイタケなどもひっそりと私たちを待っていてくれました。



大きなジョロウクモがマルハナバチを捕食しているところをみんなで見たり、オオスズメバチが留まっている大木の横を刺激しないようにそっと通り抜けたり…森はスリル満点で、面白いものがたくさんありました。



山道沿いには椎の実、カヤの実、ガマズミなど、また広場の横には脳ミソのようなスポンジ状のフワフワしたノウタケや、ムカゴ、山柿もありました。

その場でも色々食べてみましたが、キノコや木の実などたくさんの収穫を持ってちとせ園に戻りました。



飯村さん宅前で、ムラサキシメジやシイタケ、ヒラタケ、カヤの実などを調理させて頂きました。

天ぷらもバターソテーも、香りが良くどれもとても美味しかったです♡♡

侍従川でちょうど観察会をしていた佐野さんと観音崎博物館ツアーの方々とちとせ園でお会いしました。キノコ料理を試食してもらったり、川の生き物を見せてもらったりしました。



美味しく楽しい素晴らしい秋の一日を過ごすことができました。

キノコ博士の飯村さん、引率して下さった寺尾さん、深沢さん…素敵な一日をありがとうございました♡♡

🐝 出会った生き物... マルハナバチを捕食しているジョロウグモ、クロオオアリ、オオスズメバチ、コガネムシ幼虫

🍄 キノコや実など... ムラサキシメジ、シイタケ、カイガラタケ、ヒラタケ、山柿、カワラタケ、山芋のムカゴ、キクラゲ、ノウタケ、榎の実、椎の実、ガマズミ、イヌガヤ、トキリマメ

🌸 その他の植物... マルバウツギ、アオキ、カラマツノウ、ジシバリ、オニドコロ、ノコンギク、クサギ、ハギ、キンエノコログサ、オニシバリ、ヘクソカズラ、センニンソウ、コウヤボウキ、根本の土から花が出ていたカンアオイ



11月定例クリーンアップ

【活動報告5】

11月28日(日) 10:00~11:25 晴れ

飯村優介

実施内容：六浦2号橋～大道橋（土嚢袋6袋+金物）

参加者：飯岡学、沖田正孝、沖田萌美、小野田勇介、金子英司、深沢大地、小池碧馬、今井康祥、今井翔太(高1)、貞廣宇保(中3)、五月女陽斗(中1)、臼井二葉(小6)、河本充雄、飯村優介(計14名)

気づいた点：朝の最低気温は大道で2度まで冷え込みました。寒い中ご参加いただきゴミも多く収集でき、ありがとうございました。午後は学生部上流域調査が行われました。



ゴミ拾いの様子



回収したゴミ

朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～ 飯村優介

早い秋雨の訪れの後、高温と乾燥。9月後半から10月前半は、周辺の森のキノコは凶作。10月半ばの雨と気温低下でようやく出てくる。

ウラベニホテイシメジはごくわずか。クリフウセンタケは少なめながら各所で発生。ムラサキシメジは場所により発生。いずれも去年より良い状況になった。

谷筋ではエノキタケが出始めて晩秋から初冬へと季節は移りゆく。



エノキタケ



クリフウセンタケ



ヒラタケ



フミツキタケ

生き物発見記録

10/24 (日) 金沢区大道1丁目(大道東橋付近)でマガモ(雌)を目撃 (貞廣)

11/11 (木) 金沢区東朝比奈1丁目でミサゴを目撃 (深沢)

11/28 (日) 金沢区朝比奈町(金ノ橋上流)でマガモ(雌)を目撃・撮影 (深沢・金子)

2010年頃までは毎年侍従川中流域に数個体が飛来していましたが、近年は全く確認されず、久しぶりの記録になります。



★LINEグループ「ふるさと侍従川に親しむ会」参加募集!

侍従川流域の生きものや活動に関する情報共有をしましょう!

参加希望の方は、

深沢 : 080-6714-2000, [daichan.orca★gmail.com](mailto:daichan.orca@gmail.com)

山田 : 090-3806-0055, yohji-y★ezweb.ne.jp (★を@に置き換えてください)

に問い合わせてください。

連絡お待ちしております!

琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～ ～ ヤンバルテナガコガネ ～



学名 : *Cheirotonus jambar*

体長 : ♂47mm~62mm、♀46mm~60mm

分布 : 沖縄島北部

83年に発見され、翌年84年に新種記載、国の天然記念物に指定された日本最大の甲虫。和名のとおり♂個体は前足が長く伸びていて、これは樹木の幹を登るときや、♂同士で争う際の武器となる。♀個体の前足は短く、カブトムシの♀を一回り大きくしたような姿をしているが、上羽に黄色い斑紋がある点で、オキナワカブトムシの♀と区別できる。幼虫がイタジイやオキナワウラジロガシの大径木の洞の中で生育するので、このような木々が残る沖縄島北部でしか生息できない。本土ではカブトムシやクワガタムシが減る8月末から10月にかけて成虫が出現し、成虫は約2週間ほどで寿命を終える。



現在は生息環境破壊や密猟により個体数が非常に減っている為、探すのは難しく、地元の人でも滅多にお目にかかれない、いわば「幻の大昆虫」と言われている。

筆者は12年に渡る山原(沖縄島北部)のフィールド撮影で合計7個体の♂を撮影してきたが、未だ♀には出会えていない。

監修 : 熊井健 (沖縄在住)

北の国から ～釣りははじめました～ 瀧本宏昭

コロナ感染者数が落ち着いてきた今年の秋。友人から「港町に住んでいるのに釣りしないの?」という声かけから、海釣りをはじめました。ただ、道具をそろえるのにお金をかけたくないことと、私が初心者だということから、今のところサビキ釣りを時々やっている程度です。サビキ釣りというのは、コマセという小さなエビエサを撒いたところに、針が1列に複数ついた糸を竿の先からたらし、魚がかかったらリールで糸を巻き上げるものです。ただサビキ釣りといっても色々なやり方があるようなので、興味がある人は調べてみてください。

つい先日も、むかわ町にある漁港に釣りに行ってきました。ねらいは、チカという名の魚です。大きいサイズで20cmぐらい、日本国内では東北地方よりも北側に生息している種類です。北海道では冬から春にかけて港で多く釣ることのできる定番の魚です。ワカサギの仲間でも骨やうろこが比較的に柔らかいため、小さいものであれば丸揚げにして食べることができます。

「美味しいよ」という言葉に惹かれて友人といっしょに港へ出向き、約半日で約50匹釣ることができました。今年は水温が下がるのが遅く、まだ釣れにくい状態だったようです。良い条件だと、糸を垂らしてすぐにサビキの仕掛けの糸1本に複数匹がかかるとのこと。個人的には、この日の結果で大満足でしたが。釣った魚は、その日の夜にまるごと天ぷらにしました。臭みなどのクセが無く、身がホクホクで柔らかく、内臓の少しの苦みが良いアクセントになっていて、とても美味しくいただきました。食費も安くつきますし、今冬ハマってしまうかもしれません。ただ、今日の自分の取り分だと、釣りえさ代よりもスーパーで売っているものを買う方が安上がりではありますが・・・



むかわ港



当日の取り分



この日一番のサイズ



まるごと天ぷらに

侍従川定例調査報告 学生部

2021年9月26日(日) 下流調査

[時間] 13時~16時 [調査区間] 六浦二号橋~潮見橋

[参加者] 金子、深沢、飯村、五月女、貞廣 [天候] 雨

[採取した生物] チチブ(約1cm) 100+、マハゼ 1、ヒナハゼ 1、ビリンゴ 50+、アシシロハゼ 1、イタヤガイ科の一

種(死殻) 1、オニアサリ(死殻) 1、ヒメシラトリ(死殻) 1、ホソウミニナ 多数、ムラサキイガイ 3、キクザル(死殻) 1、コツブムシ科の一種 1、フタバカクガニ 1、ユビナガスジエビ 20+、フナムシ(目視) 10±、チゴガニ(目視) 100+



オニアサリ

2021年 秋 学生部水鳥調査報告

<調査範囲> 野島海岸(前浜)及び野島水路, 野島公園対岸(日産工場側)

<調査対象> 渡りの途中に立ち寄るシギ・チドリとその他鳥類

<調査方法> 干潮時刻前後に図1の調査範囲を1日に1~2回, 30分程で回り個体数を計測.

<日程> 8/4, 8/12, 8/20, 8/22, 8/28, 9/3, 9/8, 9/13, 9/16, 9/19, 9/21, 9/23, 9/25, 9/26, 9/29, 10/2, 10/6, 10/9, 10/11 (計19回)

<調査者> 深沢大地

<調査結果>

①本調査で対象とした水鳥

(a)メダイチドリ, キアシシギ, ソリハシシギの3種は, 繁殖地であるユーラシア東部から, 越冬地である東南アジアやオーストラリアへ渡る途中に中継地点として日本に立ち寄る.

(b)イソシギ, ヒドリガモは越冬の為に渡来し, 翌年春まで滞在する.

(c)その他の種は留鳥で, 通年侍従川流域で見られる.

②(a)の3種の行動

- ・ソリハシシギとキアシシギは満潮時には係留されたボートの上や, わずかに残った陸地で観察された. 人間を警戒してはいるが, 距離を置いたり, 干潟に人が多い時は近くの船やブイの上で待機し, 人が少なくなっ



キアシシギ



メダイチドリ



ソリハシシギ

たタイミングに採餌していた。

- メダイチドリは満潮時に調査範囲内で見られる場所は無く、どこにいるのかは不明。人間に対しての警戒心が強く、干潟に人が多い日はどこかへ飛び去ってしまい、滞在していると推測される期間でも観察できない事があった。
- メダイチドリは多毛類を主に、ソリハシシギとキアシシギは甲殻類(チゴガニ, ヤマトオサガニ)を主に食べていた。

③その他

- 本調査では初記録となるソリハシシギが確認された。
- 学生部調査では初記録となるダイサギ(亜種チュウダイサギ)が確認された。

	8/4	8/12	8/20	8/22	8/28	9/3	9/8	9/13	9/16	9/19
メダイチドリ	3	0	8	17	0	9	3	0	0	0
キアシシギ	5	13	5	5	13	4	0	1	0	0
ソリハシシギ	0	0	0	0	4	6	3	4	3	0
イソシギ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヒドリガモ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カルガモ	0	0	0	0	0	0	2	0	4	2
カワウ	0	5	2	2	2	6	5	3	7	7
アオサギ	0	0	1	0	1	2	1	0	2	0
ダイサギ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
コサギ	0	0	1	0	0	3	1	0	0	0
ウミネコ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0

	9/21	9/23	9/25	9/26	9/29	10/2	10/6	10/9	10/11
メダイチドリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
キアシシギ	0	0	1	0	0	0	1	0	0
ソリハシシギ	3	3	2	2	2	0	0	0	0
イソシギ	0	1	1	1	0	0	0	1	0
ヒドリガモ	0	0	0	0	0	0	0	0	2
カルガモ	0	0	5	0	0	0	0	0	0
カワウ	2	1	0	4	2	4	0	0	1
アオサギ	1	2	0	0	0	0	0	0	1
ダイサギ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コサギ	1	0	1	0	0	1	0	0	0
ウミネコ	0	0	0	1	0	0	0	1	0

事務局だより

◆1月～3月の活動予定

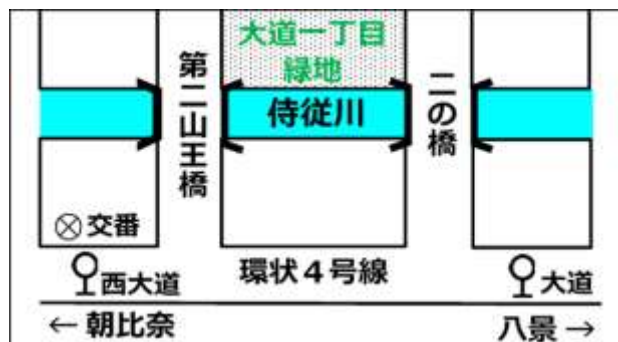
☆定例クリーンアップ 1/23(日)、2/27(日)、3/27(日)

10時～11時 大道一丁目緑地(ちとせ

園) 集合 ※雨天中止

持ち物: 川に入れる格好、タオル、軍手(必要な人)、網(使いたい人…貸出あり)、着替え(心配な人)

※川の上からの参加でも構いません



★1/30(日)ネイチャークラフト教室～つるでカゴ作り 9:00～15:30頃

午前…朝比奈の森でつる採り 午後…朝比奈の森内の広場でカゴ作り

[集合] 9:00 大道一丁目緑地(旧称ちとせ園)

[参加費] 会員¥0 非会員¥300 *雨天中止

☆非会員の方は緊急連絡先(雨天中止連絡アドレス)を記入の上、**info★jijyukai.sakura.ne.jp** (★を@に置き換えてください) 担当の寺尾までご連絡ください。

[持ち物] 参加費(非会員)、山歩きできる格好、軍手、防寒具、剪定ばさみ(ある人)、エプロン(服が汚れるのがイヤな人)、昼食(買い弁可)、飲み物、タオル、レジャーシート、防寒具(午後も屋外の活動なので)、その他必要と思うもの

■学生部の活動

☆定例調査 3/27(日) 定例クリーンアップ後の午後に実施

☆冬の野鳥観察会in野島公園

双眼鏡の使い方や図鑑の見方等初歩的な所から、種類の識別、観察記録の付け方等、参加者に合わせて進めます! **近日開催!!**

[日時] 12/25(土)10時～15時 ※予備日 1/9(日)

[集合解散] 野島公園青少年研修センター 未来への卵前

[活動場所] 野島海岸及び野島山 [参加対象] 小学生～大人

[持ち物] 双眼鏡、筆記用具、飲み物、昼食、野鳥図鑑(持っていたら)、その他

[申し込み] ①氏名(フルネーム)、②学年(大人の方は大人と記入して下さい)、③緊急連絡先を記載したメールを**daichan.orca★gmail.com** (★を@に置き換えて下さい) までお願いします。 ※双眼鏡をお持ちでない方も申し込み時に連絡下さい。

[定員] 15人※先着順 [参加費] 無料

※じっとして鳥を見ていると結構寒いです。防寒対策をしっかりとして下さい(手袋が

あると良いです！)

※当日体調の悪い方は参加御遠慮下さい。

雨天延期… 延期の場合は当日朝7時までに判断して連絡します。

☆学生部水鳥調査

[日程] 第3回1/15(土) 第4回2/19(土)

[時間] 9時～14時頃 [集合] 野島橋(シーサイドライン野島公園駅下)

[解散] 大道1丁目緑地

[調査目的] 侍従川及び野島海岸へ飛来する水鳥の種類と個体数の把握

[調査対象] 鳥類

[調査範囲] 野島前浜、野島水路、平潟湾、侍従川本流(平潟橋～山王橋)

[持ち物] 昼食(途中コンビニ有り)、飲み物、その他(双眼鏡、カメラ、図鑑、筆記用具等)

[参加対象] 小学生以上 ※調査にしっかり参加できる方

[留意点] ※道路を歩いての調査になります、十分気を付けましょう。

※雨天中止(当日朝7時までにメーリングリストにてお知らせします)

※当日体調の優れない方は参加ご遠慮ください。

[問い合わせ] 深沢 [tel] 080-6714-2000 [mail] [daichan.orca★gmail.com](mailto:daichan.orca@gmail.com)

(★を@に置き換えてください)

※集合時刻に遅れる場合や途中参加される場合は深沢までご連絡をお願いします。

☆大道溪谷保全作業

[日程] 第2回作業：1/23(日) 第3回作業：2/27(日)

[活動時間] 13:00～15:00頃 ※雨天中止

[集合] 13:00に大道中学校体育館前

[活動内容] ホタル生息環境保全を目的とした草木の伐採や水路の土砂除去作業

[持ち物] 軍手、長靴もしくは胡弓長、タオル、飲み物、スコップ(ある人)、のこぎり(ある人)、剪定鋏(ある人)、草刈り鎌(ある人)、その他(鉋等伐採作業に使うもの)

[対象] どなたでも

[留意点] ※申し込みは不要です。

※刃物等の取り扱いは十分注意してください。

※枝や下草で擦れると思います。長袖長ズボンの着用を推奨します。

※日曜日はソフトボールチームが活動している可能性があります。迷惑を掛けないよう気をつけて行動するようにしてください。



昨年の作業後の水路

☆夜の干潟観察会 in 野島公園

[日程] 1/29(土) [活動時間] 19:00~21:30頃

[集合] 19:00に乙舳海岸(野島公園前浜) [活動内容] 干潟に生息する生き物の観察

[持ち物] 海に入れる格好(寒いので胴長推奨)、ライフジャケット、懐中電灯、タモ網、バケツ等捕まえた生き物を入れておくケース、その他必要な物(カメラ、観察ケース、箱メガネ等)

[対象] どなたでも

※夜の活動となりますので小学生以下は保護者同伴でお願いします。

※18歳以下の方で解散時間から帰宅までに11時を過ぎる方は保護者の方のお迎えが必要となります。

[申し込み] ①参加希望のイベント名→夜の干潟観察、②参加者氏名、③住所、④年齢(学年)、⑤緊急連絡先、⑥ライフジャケット所有の有無を明記の上、**info★jjyukai.sakura.ne.jp(★を@に置き換えてください)**(金子宛)にメールをお願いします。

[留意点] ※雨天中止

※必ず申し込みをお願いします。

※中学生以下は必ずライフジャケットを着るようにお願いします。

※高校生以上の方のライフジャケット着用の有無は自己責任でお願いします。

※かなり、冷えますので防寒対策をしっかりと準備してください。

<< 新型コロナウイルスの対応について >>

1月以降も例年どおりの活動を予定していますが、状況により変更・中止となることがあるので、その場合は、ホームページ及びメーリングリストでお知らせします。ご了承ください。

活動参加の際は、マスク着用等感染対策は各自でお願いします。また、当日37.5℃以上の発熱、体調の優れない方は参加をご遠慮ください。

侍従会のホームページはこちら

<https://jjyukai.sakura.ne.jp/wp/>

これまでの会報は全てホームページで見ることができます。



《編集後記》2009年から続いていました連載『琉球生き物紀行』は、残念ながら今回で終了となります。毎回、素晴らしい写真と的確な解説で、楽しみにしていた方も多いのではないかと思います。熊井さん長い間ありがとうございました。(MK)